

上流武庫川 環境に配慮した床止工 (三田市藍本)

(二)武庫川水系武庫川の三田市藍本地区の湾曲部は、既設固定堰のある現川部、中洲部、洪水時に水が流れる河道部から成り立っている。

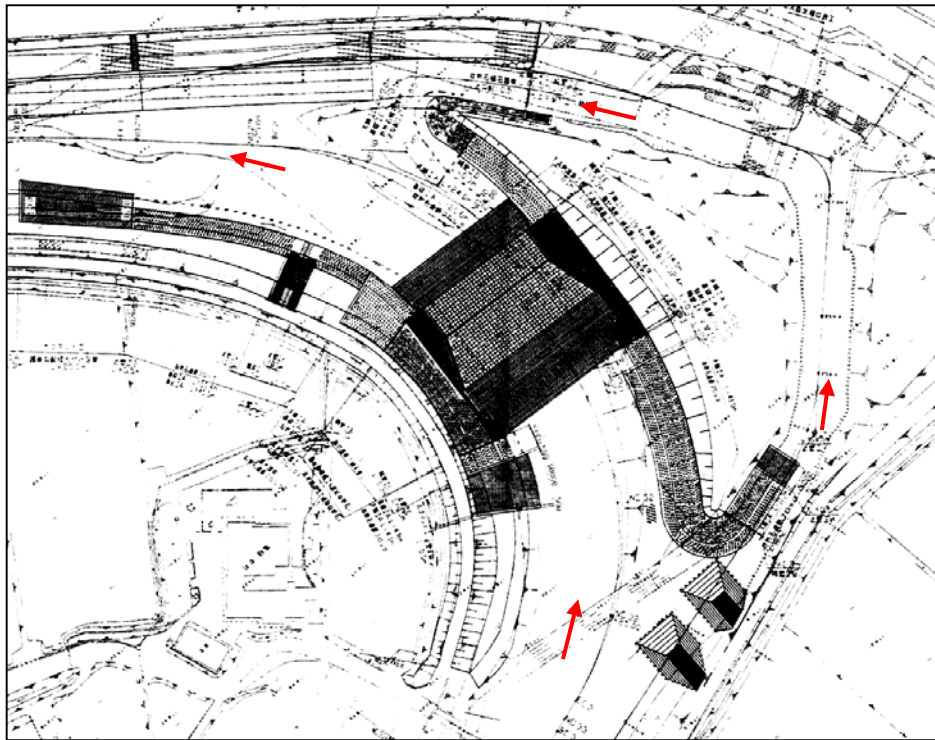
平常時は湾曲部を境にして上流側は水の流れが穏やかな湛水域が分布し、下流側は川のせせらぎのある流水部に分けられ、武庫川全体でも貴重な空間を有していると共に、兵庫県レッドデータブックでAランクに指定されている“トンガリササノハガイ”をはじめ多くの貴重で多様な生物の生息域の場でもある。

一方、洪水時は河道断面不足から、堤内地に氾濫が生じるなど地域住民の生活が脅かされていることから、河道改修を行い治水安全度を向上させることが望まれている。

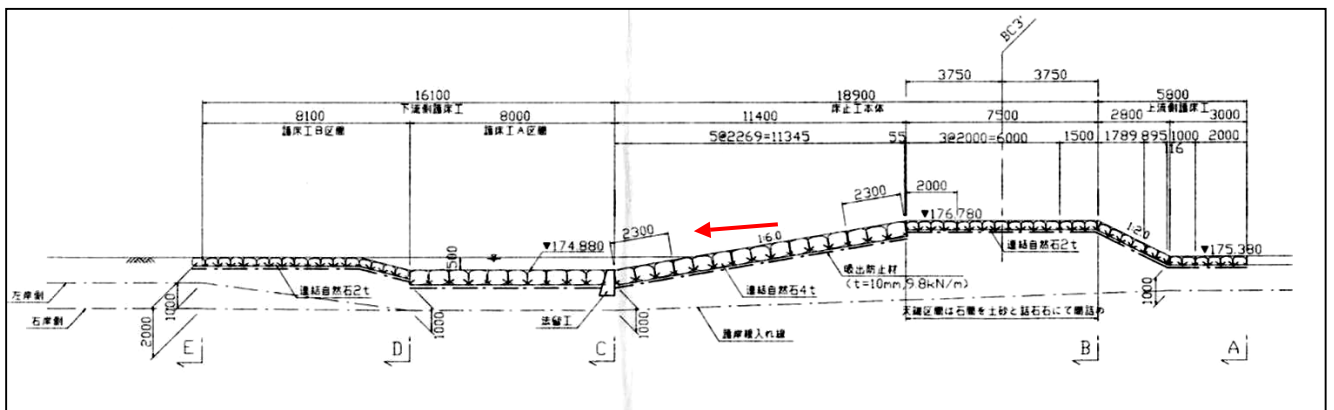
湾曲部の改修は以上の現状を踏まえ、治水と環境を調和させることを基本とし、学識経験者、地元代表、行政が一体となった「上流武庫川 環境に配慮した床止工検討委員会」の議論を通じて、湛水域を残すために自然石を使用した床止工を設置することとし、現在工事を実施している。

また、完成後はモニタリングを行い、湛水域を保全したことによる生態系及び治水面での効果を評価していくこととしている。





床止工平面図



床止工縦断面図



湛水域の状況（高井橋より上流を望む）



トンガリササノハガイ